

「第14回やまなし産業大賞」受賞内容

【最優秀賞】

鈴木興業株式会社（笛吹市、代表取締役：鈴木 康修、従業員：85人）

<概要>

河川や港湾で用いられるテトラポッドの把持装置。ワイヤー部分と油圧シリンダーで駆動する掴み部分からなる軽量作業アタッチメントであり、油圧ショベルでテトラポッドの移動、運搬及び設置を可能とする。従来の吊り上げ移動に必要な玉掛作業が不要となり、作業時間の短縮、作業人数の削減、労災リスクの低減といった効果が見込まれる。

また、氾濫寸前の河川付近など比較的悪条件の中でも作業を行うことが可能となる。

<受賞理由>

被災地での復旧活動からヒントを得た、作業性や作業員の安全性の向上に繋がる製品である。重く掴みづらい形状のテトラポッドを迅速かつ安全に移動させることを可能とした本製品は画期的なものであり、防災面からも今後の成長性が期待される。

時代のニーズに合った素晴らしい技術・アイデアであり、今後も自社の持つ技術力や開発力を生かしながら国内外の現場が抱える課題を解決するような製品展開を期待したい。



【優秀賞】

山本基礎工業株式会社（甲府市、代表取締役：山本 武一、従業員：56人）

<概要>

橋梁や高速道路等の耐震工事の際に使用する掘削機。従来の工法だと施工対象の橋梁を撤去するとともに仮設の橋梁等を施工する必要があるが、超低空頭掘削機を用いることで、既存の橋梁等を撤去することなく施工することが可能となる。さらに、建築物地下での耐震補強工事のため、機械の高さを3.1mとし、排土方向が選択できるよう既存の自社製品を改良している。

工数が減ることから、地域住民や物流への影響低減が見込まれる。

<受賞理由>

今後、既存インフラの老朽化へ対応する工事件数は増加が見込まれる中、施工の品質を維持しつつ大幅な作業効率化が実現可能な製品であり、高い市場性が見込まれる。

独自の重機開発による唯一の工法は、従来の工法における課題を解消するだけでなく様々な場面での活躍・活用が期待される。日本のインフラを支える重要な技術であり、将来性が期待できる。



【優秀賞（小規模）】

フジギラ株式会社（富士吉田市、代表取締役：加藤 誠、従業員：4名）

＜概要＞

バナジウムを溶かした染料を応用し、ウール天然繊維の風合いを損ねることなく光吸収発熱機能加工を施した、国内初の技術による繊維素材及びその製品。太陽光などに含まれる近赤外線を高効率に熱エネルギーに変換し、従来の合成繊維にはない抜群の保温効果や難燃機能を備えている。

光吸収発熱の物性を担保しながら安定した染色を行うため、膨大な染色テストを実施し製品化を実現している。

＜受賞理由＞

天然繊維での光吸収発熱機能加工は国内初であり、従来の合成繊維への太陽熱吸収剤となる粒子を練り込む技術に比較して持続可能性を感じる。

色の再現性も識別不可能な限界色差を追求しており、製品としての完成度が高い。

今後、様々なカラーバリエーションが展開されることにより、更なる成長性が見込まれる。地場産業である織物の活性化に寄与することにも期待したい。



【審査委員奨励賞】

KEIPE 株式会社（甲府市、代表取締役：赤池 侑馬、従業員：125名）

＜概要＞

普段の食事にプラスすることで、忙しい中でも気軽に栄養を取ることができる、メンタルケアの観点から開発した粉末スープ。

1食で11gのタンパク質と100mgのGABAを摂取することが可能であり、「ストレス社会で多忙な方にもホッと一息ついてほしい」という思いから作られた製品。

タンパク質はお湯を入れると固まりやすいが、溶けやすいよう配合を調整している。また味にもこだわっており、淡路島の玉ねぎを使用し、美味しく続けることのできる製品。

<受賞理由>

昨今のニーズを捉えた製品であり、成分含有量で他社との差別化が図られていることから高い市場性を感じる。

自ら経営する障害者就労継続支援A型事業にて、メンタルヘルス対策におけるセルフケアの重要性を認識、自社で働く人たちから得たヒントをもとに製品展開しており、一般的な障害者支援からイノベーションを起こす可能性を感じる。「障がい特別なものにせず誰もがそこに居ていい社会にする」という企業理念が形となった製品として評価できる。

